



Leading Edge



Greeting

JAA 会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？ 季節報 JAA Leading Edge Spring 号をお届けします。今号では、2018 年の皆様との活動を通して、2019 年の新たな目標が見えてきた...そんな報告ができる事をととても嬉しく思います。ぜひ最後までお読みください！

Contents

1. 【会長挨拶】 「2019 年は、行政へのアプローチを積極的に取り組む年に」
2. 西日本豪雨に見舞われた真備町での救助活動について
3. 茨城県境町「利根川大花火大会」での水上パトロール
4. 【活動報告①】 JAA Meeting - Summer 2018 in YAMANAKAKO
5. 【活動報告②】 JAA Meeting - Winter 2018 in TOKYO
6. 【Airboats Tips】 エアボートとホバークラフトの違い
7. JAA オリジナルTシャツつくりました
8. **NEW!** 【会員紹介コーナー】 池田俊彦
9. 【会計報告】
10. 今後のスケジュール
11. 会の目的

1. 【会長挨拶】

「2019年は、行政へのアプローチに積極的に取り組む年に」

「災害列島」という名称がただの枕詞ではなく、まさに日本の別名であるかのように、次々と自然災害が続いています。気象の変化の影響もあり、水害が増加している近年。これからもっと災害が増えることが予想されます。だからこそ、JAAの役割はより重要なものになっていきます。今回の会報で報告する2018年の2つのイベントは、JAAの今後のあるべき姿に近づく、進歩を感じるものとなりました。これは非常にうれしいことです。そしてこれは、会員の皆様ひとりひとりのおかげでもあります。

岡山県真備町の救助活動で得た課題があつてこそ、今後のJAAがすべきことを探り出すことにつながりました。2018年は、2019年に飛躍するための足元を固めていく、準備の年でした。これまでJAAが歩んできたことを糧に、次なるステージに向けて与えられた時間と感じています。

2. 西日本豪雨に見舞われた真備町での救助活動について

7月9日、真備町を襲った水害の救助活動に向かいました。その時のFacebookの投稿から引用。

「真備町は盆地のような地形で、なかなか引かない水を夜通しポンプで汲み出していました。長靴を履けばどうにか歩ける所もあり、自宅を気にして様子を見に戻る住民も。私たちはそんな方達をエアボートで送迎しました。自宅にペットを残して避難していたご夫婦は、無事だったワンちゃんを抱きかかえ、泣きながら避難所へ戻っていきま

した。その後もエアボートで水没した所を見回りましたが、救助を必要とする人の気配は感じませんでした。相当な音を響かせて走っても反応がないことをハイパーレスキュー隊に報告しました。活動は捜索へとシフトする様子で、避難のための人の移動を目的とする私達は、引き上げることにしました。被災地と被災者の皆様が、一日も早く元気になることを願っています。」

この時、いち早く救助に向かいたくても道路が封鎖され、一般車両は足止めとなり、通常なら到達まであと2時間のところを17時間もかかるという事態になり、任意団体が「救助に赴く」ということ自体がいかにも大変かを思い知らされました。

以前の救助活動では、目の前で救助を求めている人がいても、公的機関と連携している場合、勝手には動けないので、もどかしい思いを味わったこともありました。

しかし、ここで得た課題が、次へとつながることになりました。（活動報告②参照）



早朝の真備町。水害現場にて

3. 茨城県境町「利根川大花火大会」での水上パトロール

「利根川大花火大会」は毎年境町で行われる関東最大級の花火大会です。花火打ち上げまでの時

間、若旦那、AKB48 など華やかなアーティストのステージで楽しみ、メインイベントの花火は22,800 発という大イベント。そんなお祭りの中、JAA はエアボートで、危険エリアに船舶が入らないように水上で待機。

この待機の仕方が、通常の船による水上待機とはまったく異なります。それは、待機が「停泊」ではなく、浅瀬に「座礁」している、という点。船底にスクリューがないからこそ座礁することができ、その間、船体はまったく揺れません。停泊では、近くをほかの船が通過すると干渉されて揺れますが、そういったこともありません。揺れないということは、船内で細かい作業ができるということ。救助艇としての可能性をさらに広げることにつながるのかもしれない。



待機中も浅瀬に乗り上げられるため、船は揺れません

4. 【活動報告①】

JAA Meeting - Summer 2018 in YAMANAKAKO

実施日：2018年8月3日(土) - 4日(日)

至：フレッシュエア-山中湖ベース

8月3日～4日の週末、フレッシュエア-山中湖ベースに会員30人が集合し、2日間にわたっての初めてのワークショップイベントが開催されました。



暑い日だったため、日除けの設営から始まりました

今回の大テーマは、JAA 所有第1号となるエアボートの製造。「エンジン搭載・始動」「船体の不沈仕様」「船体ペイント」をしました。JAA の救助活動用エアボートを持つための念願の企画でもあります。

1泊のイベントとなるため、山中湖ベースの2階を女性専用スペースとして開放、男性用の青空シャワールームを作りました。また、楽しい食事のために、屋外に大きな仮設キッチンが登場。ここが会員同士の交流ができる場所になり、知らない人同士でも会話が始まる場所ともなりました。



地元の会員も増え、にぎやかにスタートしました

不沈構造を目の当たりにするワークショップ

エアポートを作るワークショップは、佐々木会長が準備してくれたパーツをプラモデルのようにボルトオンで組み立てることでした。その陰には、事前に穴をあけたり、ボルトを選定したりといった綿密な準備がありました。その下準備をはじめ、当日の草刈り、テント設営、食事のしたくなどメンバーで分担し、楽しんでもらうイベントになりました。皆様のご協力に心から感謝します。

青空の下で、船体を組み立て、不沈構造のかなめとなる部分を作り、塗装。フレッシュエアーの工具を使って溶接というハードな作業をする方がいる一方で、普段、工具とは無縁の女性軍が、養生テープを貼ったり細やかな塗装をしたりと、個々ができることを生かして、船づくりに参加することができました。



吹き付け塗装は女性も交代で挑戦！

知識としては、フレッシュエアーのエアポートは、発泡スチロールを敷き詰めることによる不沈構造だということは頭でわかっているも、実際に「こうなっているんだ」とわかる、まさに「百聞は一見に如かず」を目の当たりにすることになり

ました。



2日目終わり、達成感でいっぱい記念撮影

夜の部 懇親会

懇親会には、日中のワークショップの参加者だけでなく、地元の方も参加。また、お子さん連れで家族参加して下さった方もいました。料理はビュッフェスタイルで、飲み物はクーラーボックスに入れて提供しました。

また、生バンドの本格的な演奏やセッションなどもありました。昼とは違った楽しい夜、皆で楽しむ素晴らしい懇親会となりました。



元プロミュージシャンも参加の本格的なライブ

夏のミーティングイベントは毎年開催していますが、こうしたワークショップをしたのは初の試み。参加者全員で共通目的に向けて、何かを作るということ自体が、ただ「楽しかった」という思い出だけにとどめないものになりました。工場の作業場でしか見られない、表では見られないことに、自分が関わるという面白さがありました。さらに、初めて会った人も多いのに、素晴らしいチームワーク。会員同士の結束も深まったイベントになったのではないのでしょうか。

また今年も、この続きのワークショップをしていきます。目指すは進水式。今後もご期待ください。

JAA 会員の道の駅さかいさんから贈って頂いた立派な野菜達は、とても美味しく、特に会員特製の冷製コーンスープは大好評でした。

他にも、ご参加の皆さまから美味しい差し入れを頂いたり、音楽で参加して頂いたりで、会を盛り上げてくれました。



道の駅さかいさんから送っていただいた新鮮野菜たち

5. 【活動報告②】

JAA Meeting - Winter 2018 in TOKYO

実施日：2018年12月26日(水)

会場：ニュー新橋コワーキング

毎年恒例の JAA 忘年会。おいしい食事を楽しみながらの、会員同士の交流の場ですが、今年は「ただ楽しかった」だけではないものに、ということで、佐々木会長によるミニレクチャーを企画しました。そのため会場も、飲食店ではなく、コワーキング・イベントスペースを貸し切り、食事はケータリングサービスを利用しました。

乾杯の前に、まずは佐々木会長によるミニレクチャー。テーマは真備町での活動の報告と、そこで学んだことについて（2 ページ参照）。その経験こそが、私設救助隊サンダーバードジャパンを作るに至った経緯となったと話されました。



佐々木会長によるミニレクチャー

この講演の後日談となりますが、その後、支援物資を積んでいることで通行止めの道も進めるように、被災地に迅速に到達できるようになるための具体的な取り組みが始まっています。

乾杯、そして恒例のオークション、エイドも開催

ミニレクチャーでは全員着席していた会場を、立食パーティー会場に変更すべく、みなさんのご協力をいただきました。ケータリングのお料理も準備完了し、乾杯。まずは、2018年のJAAの活動をまとめたショート動画が流れました。続いて、オリジナルTシャツのご紹介、参加企業各社様をご紹介しました。

続いてオークション。今年もオークションレディの華やかなパフォーマンスで会場は盛り上がり、たくさんの落札をいただきました。この収益の半分をJAAの活動に還元していただきました。

JAA エイドは、今回はかけたアルファベットの列ごとに参加者にステージ側に出していただき、じゃんけんで勝者決定戦に。今年もたくさんのご参加、ありがとうございました！



ジャンケンも真剣！

盛りだくさんのプログラムで、あわただしくはありましたが、夏のミーティングに続き、ただの懇親会にはならなかったことで、さらに交流を深めることができたのではと思っています。

6. [Airboat Tips]

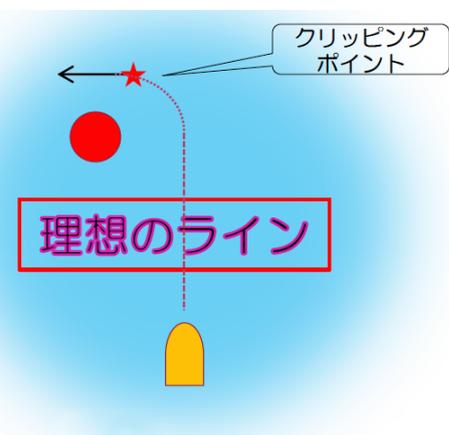
エアボートとホバークラフトの違いについて 第4回

「コーナーリング性」について

ホバークラフト(以後、ホバー)と混同されがちなエアボート。JAAの会員の皆様には、その違いを知っていただきたく連載しています。今回はエアボートとホバーの救助艇としての違いをお伝えしました。今回はコーナーリング性の違いについてです。

エアボートは、基本的に船体(ハル)が水に浸かった状態で浮かんでいるのに対し、ホバーはスカートから空気を送り出すことでクッションエアーを発生させ、水面上に浮上しています(走行時)。簡単に言うとホバーはエアホッケーのパックの様な状態です。このことは、Leading Edge 2018年秋号のAirboat Tipsにより詳しく記載しています。

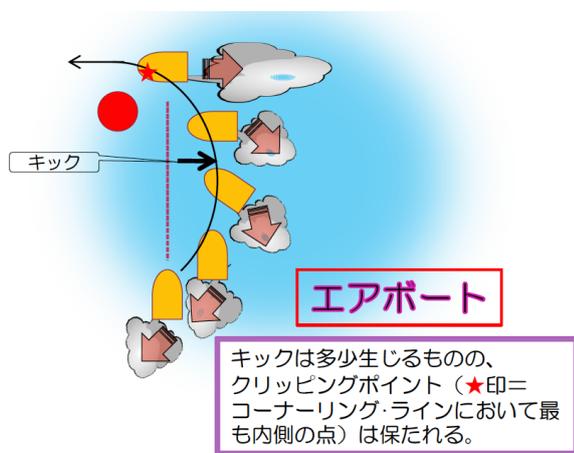
この違いを前提に、双方のコーナーリング性を比較してみましょう。【図①】をご覧ください。



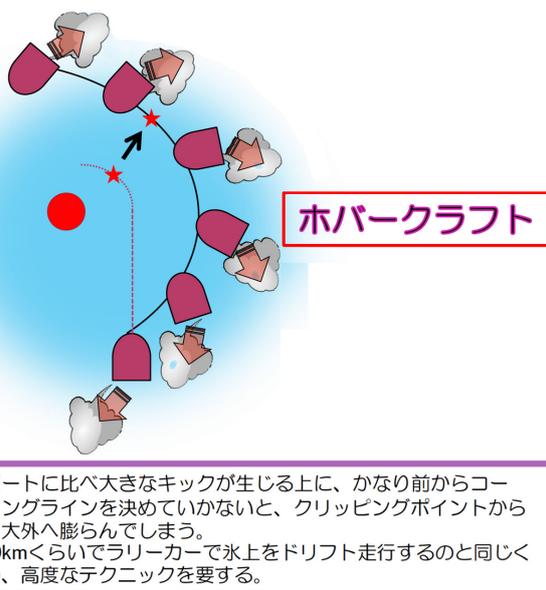
【図①】

この様なコースのコーナーリングの場合、★で示したクリッピングポイントを通過していくものとします。理想的なラインは【図①】に示したラインでの旋回です。このようなコーナーリングをしようとした場合、エアポートとホバーはどうなるでしょう。

【図②】【図③】をご覧ください。



【図②】



【図③】

どちらの船も船体後方に付いているプロペラが発生する風の方向を変えて旋回します。その風の

方向を太い矢印で表しています。今回の場合は左に旋回したいので、船首を左に向けて行くために左後ろ方向に風を吹き出しますが、この時どうしても理想のラインから右方向にスライドしてしまいます。これを「キック」と呼び、その量がエアポートとホバーで異なってきます。同じ大きさの横方向の力が加わると、ホバーは水面上に浮上していることで抵抗が非常に小さく、キックの量は大きくなります。一方、エアポートはハルが水の抵抗を受ける分キック量が小さくなるのです。

次に、クリッピングポイントを通しようとした時はどうでしょうか。同様の理由でホバーは外側に膨らんでしまいがちとなります。ツルツルの氷上を普通のタイヤを履いた車で曲がるのと似ています。ごく低速ならば差は少ないかもしれませんが、ある程度速度が上がると、図③のようにクリッピングポイントから外れてしまうという現象がホバーには起こります。一方、エアポートは氷上専用タイヤを履いた車のような感じでしょうか。ある程度のスピードまでならば、思った通りのラインで理想のクリッピングポイント上を通過できるはずだと思います。

広い水域であれば、こうした違いは許容されるかもしれませんが、狭い水路や水害で水没してしまった街中で運用することを考えると、理想に近い旋回ラインで通過できるかどうかは、救助活動において非常に重要なポイントとなるはずだと思います。

（広報：細谷知広）

7. JAA オリジナル T シャツつくりました

今回作成したオリジナル T シャツは、法人会員の皆様にスポンサーを募り、各社のロゴマークを袖とバックにプリントしました。昨年末の会員イベントで、初めて皆様にお披露目、販売しました。この収益は JAA の活動費に充てられます。

ご予約は Facebookメッセージか こちらのメールまで！
Jaaoffice.contact@gmail.com

第一弾 申し込み期間 2018年12月29日

・お名前 ・サイズ別枚数
・お支払
・ご連絡先（携帯電話）

『救助活動に必要な資金の一部をTシャツで』

JAA Tシャツ販売は12月26日 イベント日より開始
作成数少量のため、ご購入数によっては注文扱いとさせて頂き、JAAより発送、または手渡しさせていただきます（送料別途）
イベント時ご注文を受け付けます！

遠方のかた、複数枚ご購入のかたは、ご予約にて承ります

サイズ	S	M	L	XL	3L
身幅	47	50	53	56	59
身丈	67	70	73	75	77
袖丈	20	20	20	20	21
袖口	17	18	19	20	21

1枚 ¥3,500yen

救助活動に必要な資金につながります！
皆様のお申し込みをお待ちしています

購入ご希望の方は JAA までお問い合わせください

協賛金ご協力企業（順不同）

(株)モリタホールディングス

ボートレース宮島

(株)MED-1 Asia

(株)さかいまちづくり公社

(株)ビ・ポーン

(株)武鷹興業

(有)太平洋マリン

GURNEY GOO

松下雄二屋

(有)プライムワークス

(株)アニー・ディ

(株)トップドア

(株)フレッシュエアー

ご協力に心から御礼申し上げます。

8. NEW! 【会員紹介コーナー】

日頃 JAA ミーティングなどでも会員の方同士の交流の機会がありますが、なかなか普段の姿まではわからないもの。こうしたことから、会員紹介コーナーを始めます。第1回はこの方から。

池田俊彦さん（愛称：重鎮）

2015年5月24日入会



1999年日本初のアドベンチャーレース・サロモン・クロスアドベンチャーでアドベンチャーレースを始める。それ以前にもロードバイク・マウンテンバイクのレースを数多く経験する。2011 アドベンチャーレース世界選手権 XPD Tasmania に参加、5日目に足の皮が剥けてリタイヤを喫する。その経験から GURNEY GOO（ガーニーゲー）と言うフットクリームの輸入販売を始める。現在も現役アドベンチャーレーサー。

【本人より】

トップで会員紹介コーナーに出ささせていただき光栄です。これからも様々なイベントで会員の皆さんと交流していけたらと思います。

9.【会計報告】2018年決算

2018年（2018.1.1－12.31）の決算は下記の通りとなりましたことをご報告いたします。

（会計・江田京子）

収入の部	
項目	金額
入会金	13,000
年会費	152,000
参加費	373,000
Tシャツ協賛金	120,000
物販Tシャツ	38,600
JAAオークション	23,150
JAA AID	40,000
(小計)	759,750
前期繰越金	579,328
合計	1,339,078

支出の部	
項目	金額
イベント費用	250,776
ボートDIY費用	336,261
ネット関連費用	7,642
通信費	4,137
訓練用フロート	10,775
Tシャツ製作支払	130,086
(小計)	739,677
合計	739,677

2018年収入 ¥759,750 + 前期繰越金 ¥579,328 - 2018年支出 ¥739,677 = **12月31日残高 ¥599,401**

2018年の大きな出費は、エアボートDIYでの製作とJAAのTシャツ作成でした。

DIY企画は、エアボートが実際に走行できるまで続けていく予定です。また、JAAのTシャツ作成では、多くの企業からご好意を頂戴することができました。現金ベースでの計上のため、2019年に協賛金をお預かりした企業様の分は、2019年収支に反映させていただく予定です。2019年への繰越し金は¥599,401円となり、DIY企画に必要な資金を残すことができました。皆様のご協力、誠にありがとうございました。

10. 今後のスケジュール

下記に決定しました。是非ご参加ください！

JAA Meeting SUMMER 2019 in YAMANAKAKO

2019年8月3日(土)～4日(日)

JAA Meeting WINTER 2019 in TOKYO

2019年12月26日(木)

11. 会の目的

Japan Airboat Associationは「日本国内におけるエアボートの普及や安全管理」を目的としており、この目的を達成するために以下の5項目を柱に活動して参ります。

- Popularization: 各種イベントの実施
- Safety: 航行マナー講習、整備講習の実施
- Leisure: レジャー用エアボートの提案
- Rescue: 救助用エアボートの提案
- Volunteer: エアボートによる地域貢献、災害時の救助活動の実施

（編集担当/ 関川香織 レイアウト/ 本田美津子）